

長岡中央総合病院 倫理委員会 オプトアウト書式

① 研究課題名	膵癌に対する膵頭十二指腸切除後の経腸栄養は術後の栄養状態を改善する
② 対象者及び対象期間、過去の研究課題名と研究責任者	北見智恵
	2016年1月から2021年12月まで膵頭十二指腸切除を施行した膵癌症例 67例
③概要	<p>〈緒言〉 周術期の栄養状態が予後に関連するといわれている。膵癌に対する膵頭十二指腸切除術（PD）は栄養障害を来しやすい。2019年6月から術中に腸瘻を造設し、術後最低3か月は経腸栄養を行ってきた。</p> <p>〈目的〉 術後の経腸栄養剤投与が栄養状態を改善するか評価する。</p> <p>〈対象と方法〉 対象は2016年1月から2021年12月までPDを施行した膵癌症例67例。つりあげ空腸輸入脚から腸瘻チューブを挿入し、輸出脚に留置した。術後48時間以内からErentor®600mlを投与し、最低3か月は継続した。術後栄養状態の評価は術後3～4か月の結果を用い、経腸栄養群(n=26)と非投与群(n=41)に分け、後方視的に比較検討した。</p> <p>〈結果〉 術前、手術因子は両群で有意差は認めなかった。経腸栄養群で体重減少が有意に少なく、術後3か月の総蛋白、Prognostic nutritional index(PNI)が有意に高かった。経腸栄養群で術後入院期間が延長した。術後合併症、下痢の発生率は両群で変わらなかった。</p> <p>〈考察〉 術後経腸栄養剤の投与は術後の体重減少を抑制し、術後の栄養状態の維持に有効である。経腸栄養管理指導により術後入院期間が延長したが、許容範囲であると思われる。術後栄養状態の改善が予後につながるか今後検討していきたい。</p>
④申請番号	550
⑤研究の目的・意義	術後の経腸栄養剤投与が栄養状態を改善するか評価する。
⑥研究期間	2016年1月から2022年4月
⑦情報の利用目的及び利用方法（他の機関へ提供される場合はその方法を含む。）	第71回日本農村医学会学術総会
⑧利用または提供する情報の項目	血液 画像 病理 臨床記録
⑨利用の範囲	長岡中央総合病院外科部長 北見智恵
⑩試料・情報の管理について責任を有する者・連絡先	長岡中央総合病院外科部長 北見智恵
⑪お問い合わせ先（照会先及び研究への利用を拒否する場合の連絡先）	長岡中央総合病院 外科 北見智恵 〒940-8653 新潟県長岡市川崎町 2041 番地 TEL 0258-35-3700 FAX 0258-33-9596